

2017年 4月 25日

## 助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 みんなのそら  
代表者・役職名 氏名 理事長 林 康司

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

子育て中のママ・パパ・ばあばやじいじの応援カフェ「子育て ホッとカフェ」

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

転入者が急増した鶴川地区で、乳幼児を持つ母親が孤立しないよう、親子で参加できる「おもちゃのアトリエ」を任意団体としてスタート。2004年に「みんなのそら」としてNPO法人に承認。子育てアドバイザーによる「子育て講座」「親子サークル」など地域に根ざした親子支援を行ってきた。現在会員60人。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

町田市の鶴川地区では幼・保育園、子どもセンターでの子育て支援のプログラムが充実し、子どもの遊び場やプログラムも確保されてきている。しかし幼児の親は孤立しがちで、親の大変さや悩みを共有したり、悩みを受け止め寄り添う支援はまだ少ない。若い子育て世代は子育ての大変さや悩みを、気軽にしゃべったり、相談することが少なくなってきたという社会現象もある。社会問題でもある「児童虐待」を防止し、親が生き生きと育児をするためには、地域のネットワークで親の悩みを支え一緒に子育てをしていくことが有効であると考えます。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

地域で孤立しがちな子育て中の親達が気軽に立ち寄り、リラックスして育児の大変さや悩みを共有して安心感を得、息抜きできる場をつくる。コーヒー・紅茶などの飲み物が飲めるカフェのような雰囲気、リラックスした場となるようにする。先輩のママがスタッフとして話を聞くなど、地域の人と人のつながりも促す。開催時間内で、育児に関する学びの会や遊びの会、読み聞かせなど、育児に役立つ学び、子育てが楽しめるようになる企画を行った。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』

#### 300文字程度まで

2016年5月～3月(1月は除く)月1回計10回。学びの会は2回開。催9月「わたし流子育てのを見つけ方～ほめるってむずかしい?～」、3月「知っていますか、子どもの世界」。毎回10～15人参加。述べ150人ほど。リピーターも多く、「ここは別世界、ほっとする」という声もいただいた。参加者はほぼ母と子。父親の参加者も1～2人はあった。祖父母はのべ3組。最初は慣れなかった子どもたちも回を重ねるにつれ、遊びや他の子との触れ合いも活発になった。親同士のおしゃべりや交流も実現できた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

来てくれるのは主にママ。パパの姿もあったが少数。「子育て」が「孤育て」にならないための大切な「ばあばやじいじ」もご参加いただけたらと考えていたが、のべで3組だった。母親と子どもたちがメインだったので、参加しづらさがあったのかもしれない。孤立しがちな若い子育て世代の支援をするとともに、幅広い世代が集まれるよう、祖父母の方々にも来ていただきやすい雰囲気を作りたい。今後の情報提供の方法を考えていきたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり